

若宮小だより 特別号

令和7年10月6日

若宮小学校

4月17日(木)に6年生を対象として「令和7年度全国学力・学習状況調査」が実施され、その調査結果が7月31日(水)に公表されました。その結果を活かし今後の改善を図っていくために、学校としての主な課題とその改善策などを合わせて報告させていただきます。

《学力状況調査の結果》

国語

本校の調査結果を分析したところ、記述式の問題の中で正答率が高い問題がありました。複数の資料を活用して言葉や文を取り上げ、指定の文字数(60字以上100字以内)で自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章にまとめる問題はよくできていました。一方、既習漢字の問題において正答率の低さが表れていました。また読解力にも課題があり、文章の内容を捉えて何を問われているか的確に答えることや、目的に応じて文章や図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題を苦手としています。

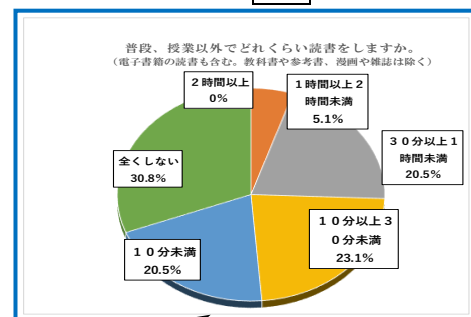
算数

示されたはかりの最小目盛りの大きさに着目し、はかりの針が指している目盛りを正しく読む「測定」領域の問題などに関しての正答率は、高いです。しかし、「数と計算」「図形」領域で、課題を持っている児童が多いことがわかりました。また、「変化と関係」領域では、伴って変わる二つの数量の関係を読み取り、知りたい数を求める知識・技能の正答率が高いのですが、「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表す問題は、難しかったという結果でした。

理科

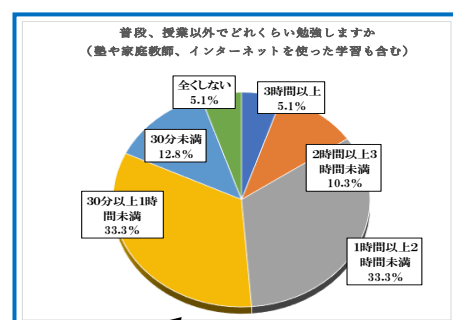
児童質問紙で、「理科の勉強が得意である。どちらかという得意である。」と答えた児童が87.2%、「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できている。どちらかといえばできている。」と答えた児童が79.5%と多いことから、理科に対する興味関心が高いといえます。知識・技能の正答率が高いですが、思考力・判断力・表現力の正答率が低くなっています。したがって、今後の授業では観察や実験からわかることを考えるところに力を入れていきます。

《児童質問紙調査の結果》 課題



読書の習慣を

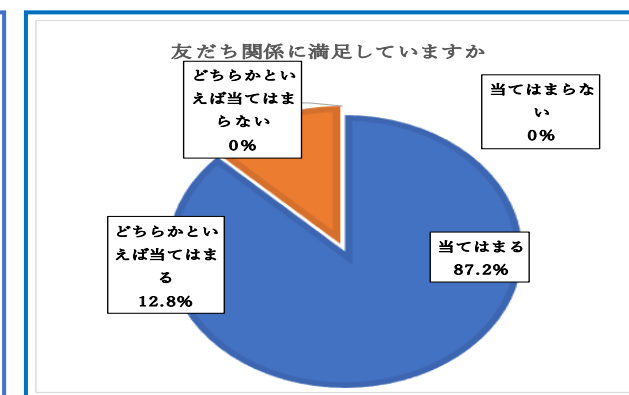
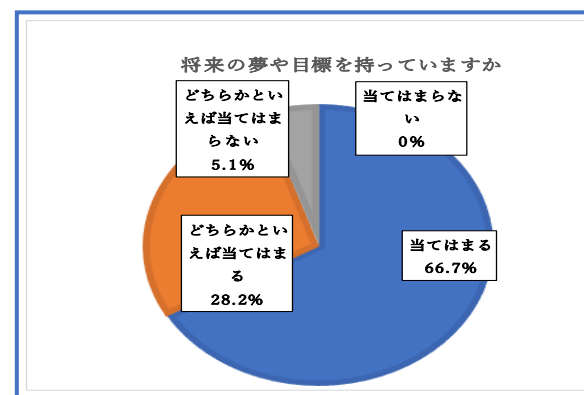
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)の読書時間が1時間以上と答えた児童は5.1%にとどまっています。また、読書時間が10分未満の児童が51.3%となっています。



学習習慣の定着を

平日に2時間以上学習をしている児童は全体の15.4%にとどまっています。また、全くしないと答えた児童が5.1%、30分未満と答えた児童が12.8%、合わせると17.9%となっています。

良好



他にも……(当てはまる、どちらかと言えば当てはまるを合わせて)

- ・人の役に立つ人間になりたいと思いますか……………100%
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う……………100%
- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気づいたりすることができていますか……………86.5%
- ・理科の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか……………87.2%

《今後の改善策》

国語科においては、情報と情報を関連付けたり、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解したりする項目に課題が見られました。質問したい内容等を関連付けて図に整理したものから、大まかな流れを捉えるなどの力をつけていくためには、様々な学習活動を通して、目的を意識しながら自分に合った方法で情報を整理する力を身に付けさせていく必要があります。算数科では、日常的な場面において、基準量や比較量、割合の関係を常に意識させていく必要があります。また、「倍」や「%」を用いた問題の設定を多く取り入れたいと考えます。3年ぶりに行われた理科においては、電気の回路の作り方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかを見る問題に課題が見られました。問題解決のプロセスを通して、学習を通して身に付けた知識を活用することができるような指導の充実を行っていきます。

質問紙では、普段の読書習慣や学習時間に課題が見られます。今後も継続して読書や家庭学習の大切さを伝え、計画的に読書や学習に取り組む習慣を身に付けさせるようにしていきます。また、読書や学習の習慣を身に付けさせるためご家庭にもご協力いただき、積極的な声掛けや励ましなどをお願いいたします。

また、「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対して、「あてはまる」「どちらかというあてはまる」と答えた児童が94.9%となっています。そして、「友だち関係に満足していますか」の質問に対しては、100%の児童が「あてはまる」か「どちらかといえばあてはまる」と答えています。これは、価値を創造する力である「自分の“すき”をみつけよう」や自由(権利)を相互承認する力である「自分も相手も大切にしよう」などの学校教育目標が確実に浸透していることを示しています。

今後さらに、本校の教育目標である「わかちあい かんがえて みつけて やってみよう」の実践を進めていくためには、保護者の皆様、地域の方々の力が必要不可欠です。今後も若宮小学校の教育にご理解ご協力よろしくお願いいたします。

やや苦手な問題

<https://www.nier.go.jp/25chousa/25chousa.htm> (国立教育政策研究所 HP 参考)

理科 問題2の(2)

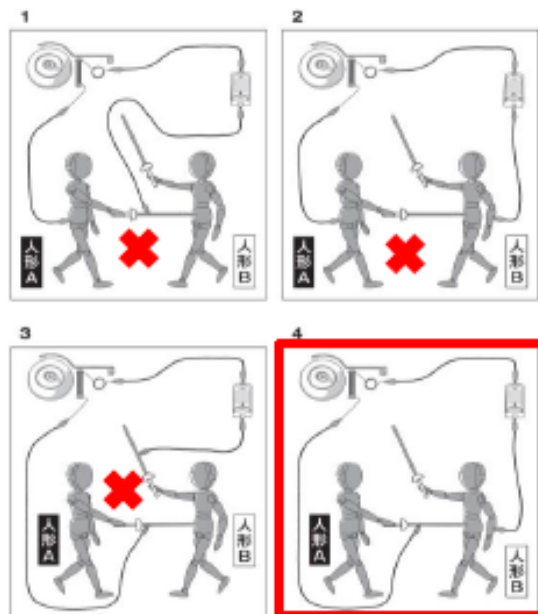
国語 問題1の二

算数 問題4の(4)

小学校理科 大問2(2)

電気の回路のつくり方について、実験の方法を予想し、表現することができるかどうかをみる問題

電気を通す物(グレー)と通さない物(白)でできたフェンシングの人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ。



正答 正答率
43.1%

電気が通る回路のつくり方に関して理解し、表現できていない児童がいた。

フェンシングの剣の持つ部分は電気を通さないもので、そこで電気の流れが止まってしまうことがわかっているならば、剣が体に当たると電気が流れるのは4だけとなります。全国の正答率は43.1%と低かったですが、本校の正答率は33.8%とさらに低かったです。本校児童はエネルギー領域が苦手で、生命・地球領域を得意とする傾向が見られました。

国語 問題1の二

1 小森さんの学級では、働くことについて考えるために、自分の興味のある仕事をしている人にインタビューをすることにしました。バスの運転士に興味のある小森さんたちは、インタビューで質問することを話し合っています。次の「話し合いの様子」と「話し合いの記録」をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【話し合いの様子】

小森さん 質問することを整理するために、話し合ったことを記録するね。私は、運転士さんがどんなことを大切にしているかを知りたいな。さっと、乗客の安全を大切にしていると思うな。

清川さん ぼくがよく乗るバスはいつも時間どおりに来るよ。時間を守ることも大切になっていると思うな。

町田さん 安全を考えながら時間を守ることは、大変そうだな。

小森さん 確かに、大変そうだね。「仕事で大切にしていること」で話してくれたことをさっさとかけにして、「仕事で大変なこと」を聞くことができるかもしれないよ。

清川さん バスの運転士は、楽しそうだなと思っていただけで、大変なこともあるんだね。大変なことがあっても仕事を続けている理由も聞きたいな。

町田さん きっと仕事にやりがいがあるからだよ。

清川さん ぼくもそう思うな。大切にしていて、さっさとやりがいについては、働くことについて考えるためにもぜひ聞きたいね。

小森さん うん、そうしよう。ここまでの話し合いの記録をこんなふうにまとめよう。この進め方でいいかな。

【話し合いの記録】

働くこと (バスの運転士)

大切にしていること やりがい

予想 安全を守る 時間を守る

大変なこと 大変なことに続ける理由

問題1の二の正解は2です。この問題は「話し合いの記録」の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する問題です。情報と情報の関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうか問われています。本中の言葉に着目することで正答率を上げることが出来ます。例えば「話し合いの様子」の本文にある「～について聞きたいな」という言葉からも、四角で囲まれている内容はインタビューで聞きたい内容であると分かります。そこから「仕事で大変なこと」から「続ける理由」へとインタビューの流れが示されていることに気づくことができます。問題2では「あつい日」(正解:暑い 3年生既習内容)の漢字を書く問題では、正答率が56.9%、「このみ」(正解:好み 4年生既習内容)は、正答率78.5%・無回答7.7%でした。本文の叙述に即した読み取りを大切にするとともに、基礎・基本的な学習を今後も進めます。

(4) 家に帰ったあさひさんは、つめかえ用のハンドソープがのっている広告を見ました。広告には、つめかえ用のハンドソープが「10%増量」と書かれています。増量前のつめかえ用のハンドソープの量は800 mLです。



増量後のハンドソープの量は、増量前のハンドソープの量の何倍ですか。上の①にあてはまる数を、下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 0.1
- 2 1.1
- 3 10
- 4 110

正解は、「1.1」です。本設問では、「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかを問っています。ここでは、「10%増量」について、「増量前の量」を100%とすると10%増量した「増量後の量」は110%となることを基に、「増量後の量」は「増量前の量」の1.1倍であると捉え直し表現することが必要となります。教科書やドリル等の紙面だけの学習ではなく、日常生活で、「10%増量」「30%引き」などの百分率が用いられている場面において、倍を使って捉え直し表現できるようにしていくことが大切です。学習した内容を日常生活の中で使っていくことは生きた算数の学習となり、力を向上させていくと考えました。